



今年(令和8年)4月から 開始予定！

RSウイルス母子免疫ワクチン

予防接種法にもとづく公費(無料)での予防接種

定期接種のお知らせ

どんな予防接種？



- 生後間もない赤ちゃんや小さなお子さんをRSウイルス感染症から守るために、妊娠中に受ける予防接種(母子免疫ワクチン)です。

母子免疫 ワクチン

➤ 妊娠中に接種し、母体内で作られた抗体が、胎盤を通じて赤ちゃんに届けられ、生後すぐの時期からしばらくの間、赤ちゃんを感染症から守る仕組みを利用したワクチンのこと。

対 象

➤ 令和8年4月1日以降、接種を受けるときに、
妊娠 28週から37週に至るまでの方
(36週6日目)



RSウイルス感染症ってどんな病気？



- RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。
- RSウイルスは年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、より重症化しやすいといわれており、特に生後6か月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。
- 生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも一度は感染する、とされています。



- 潜伏期は2～8日
- 発熱、鼻汁、咳などの上気道炎症状が数日続きその後、気管支炎や肺炎などの下気道症状が出てくる場合があります。
- 初感染の乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴(ゼーゼーと呼吸しにくくなること)や呼吸困難、さらに気管支炎の症状が増加します。
- 重篤な合併症として、1歳以下で中耳炎の合併症がよくみられる他、無呼吸発作、急性脳症等があります。



接種方法など詳細が決まり次第、
宇美町ホームページに掲載します。
随時、ご確認ください。

